


平成23年度 産業保健調査研究発表会
「群馬県における職場ストレスと
うつ状態に関する疫学調査
-リーマンショック後



群馬産業保健推進センター

竹内 一夫、椎原康史、松岡治子、浅野弘明、
真下延男、太田晶子

群馬産業保健推進センターの職場ストレス調査の経緯

！ 97年に自殺者の急激な増加（3万人突破）

* 98年秋、NIOSHの仕事ストレスモデルに基づき県下の4企業（約1,000名）で実施 = Study 1

* その後10年を経て08年末に同じ企業を対象に
ほぼ同じ内容の調査を計画 = Study 2

！ 夏にリーマンショックが発生

* その後の変化について11年度に同じ企業を対象に
ほぼ同じ内容の調査を計画 = Study 3

！ 3月に東日本大震災が発生（円高）

仕事ストレスモデル (NIOSH、一部割愛)

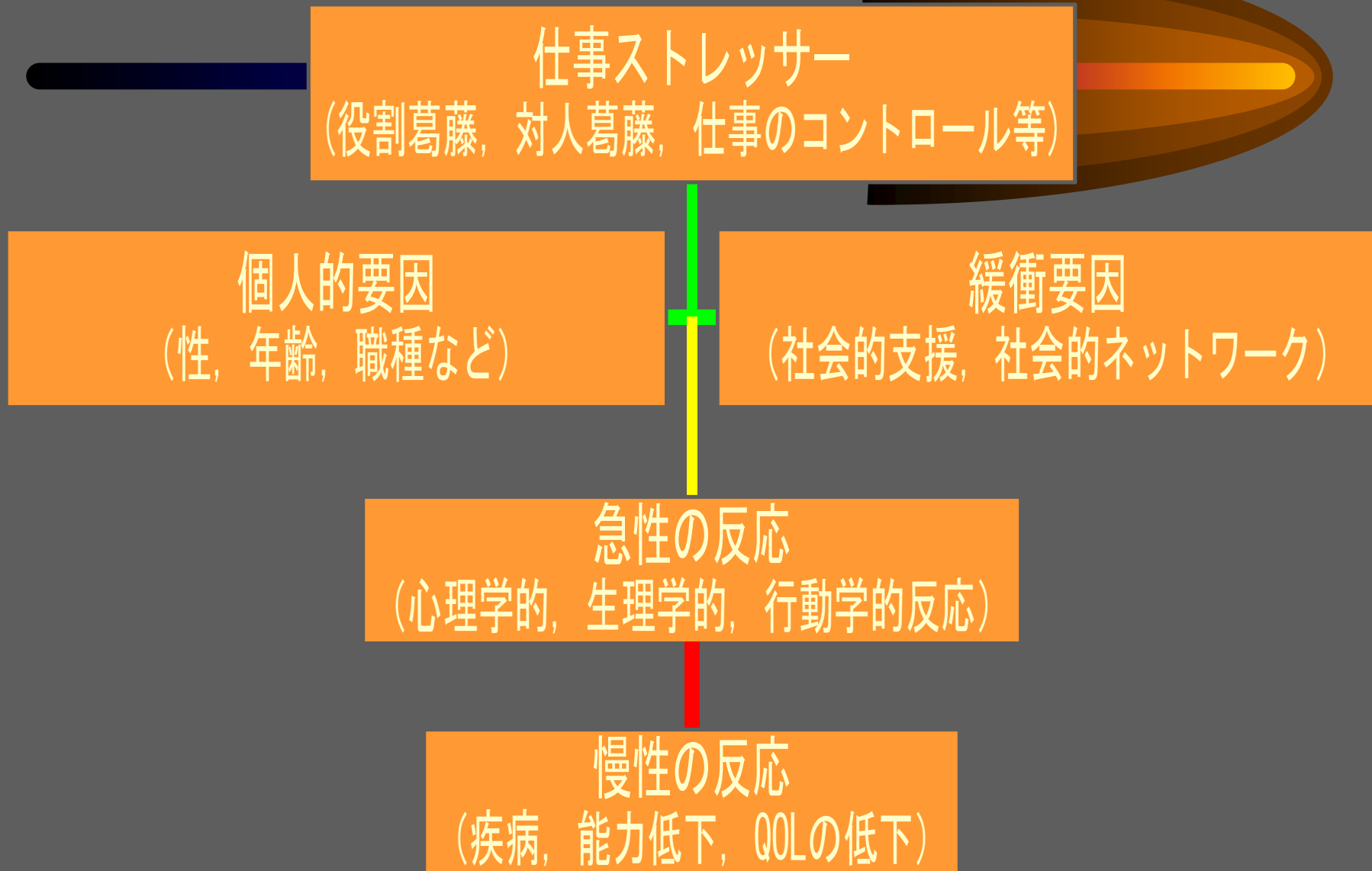
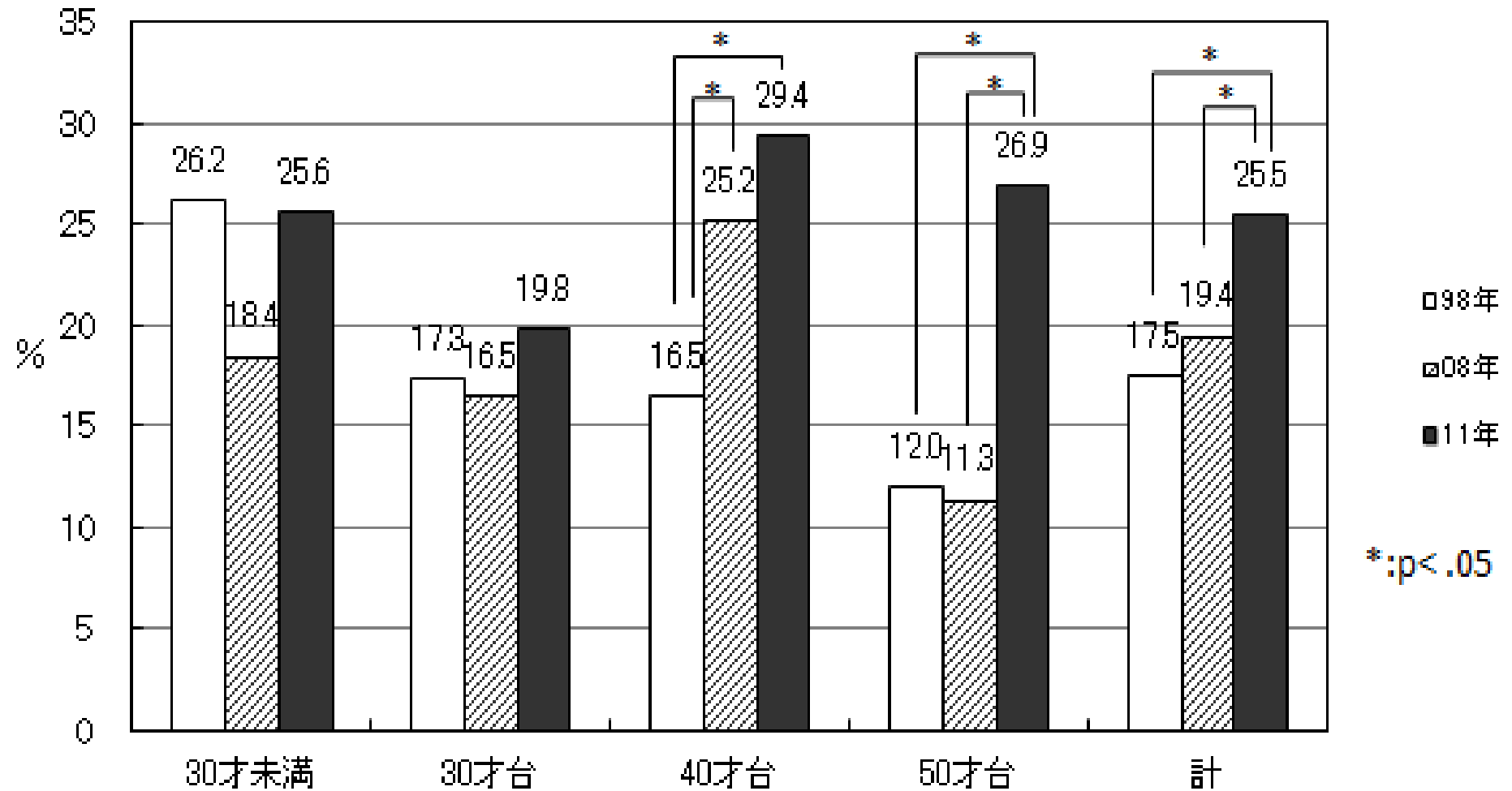
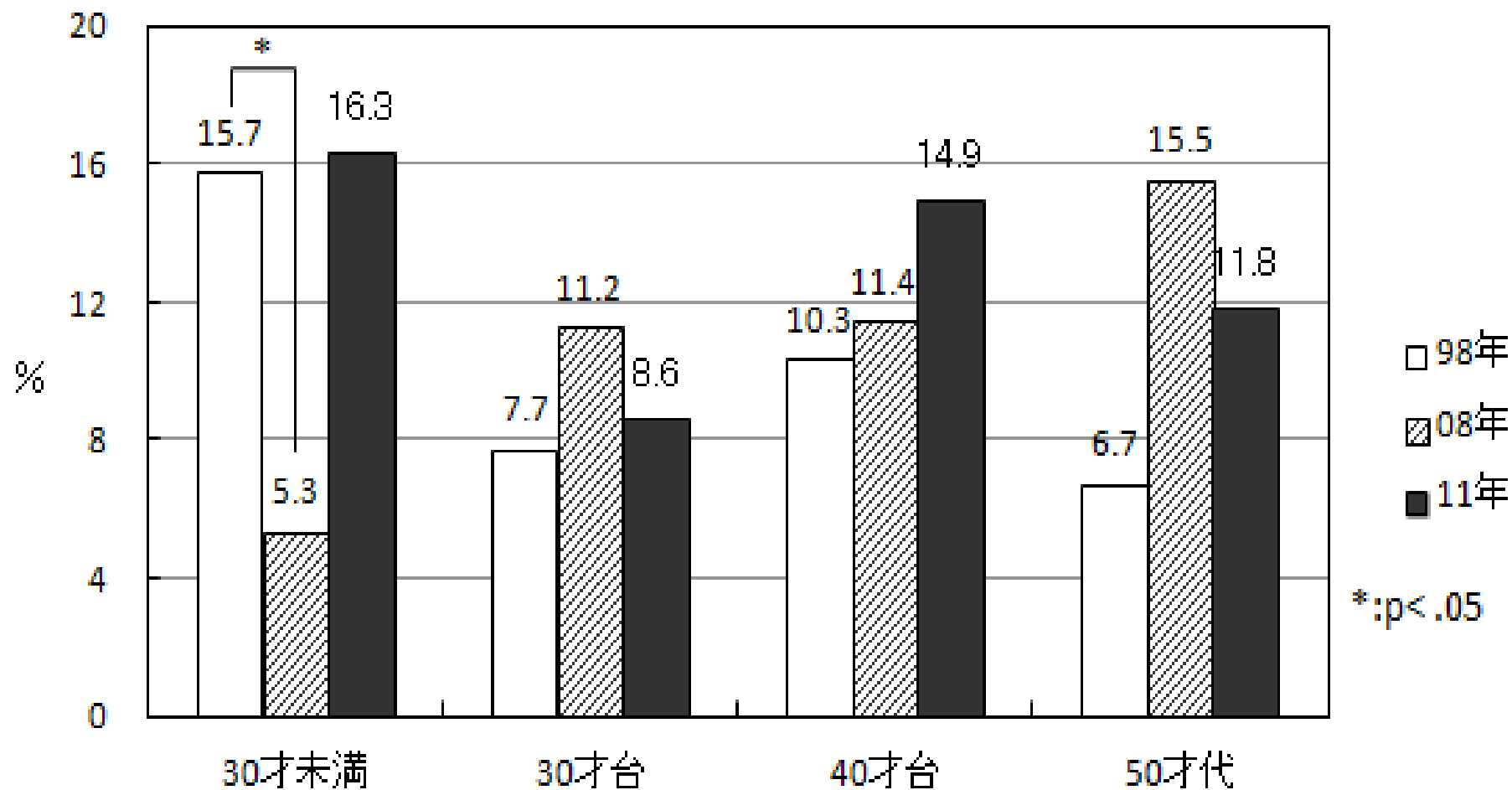


図16. 過去1か月のストレス(「とても感じた」)



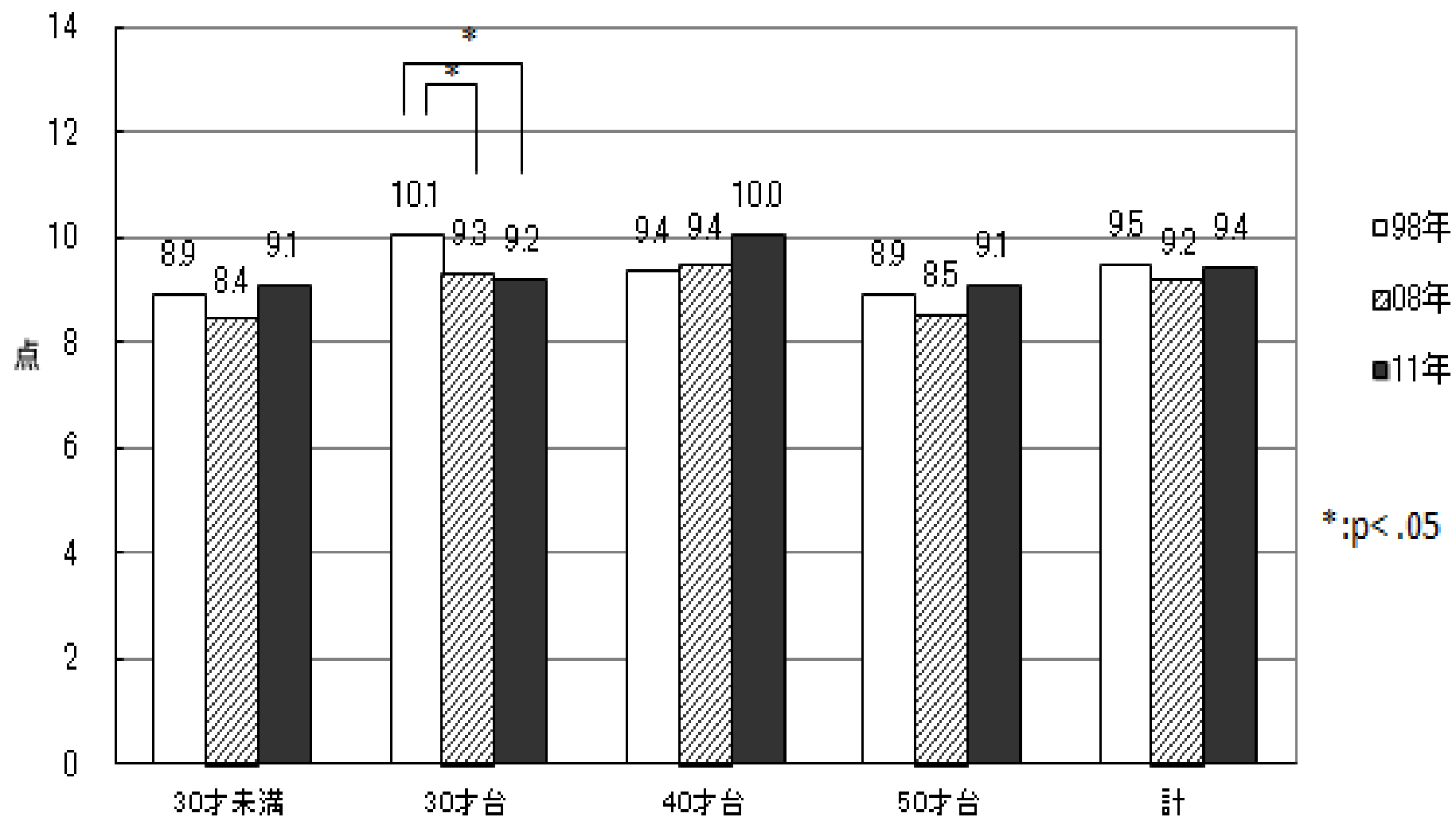
- 98年に比べ08年は、40才台で急上昇（30歳未満は減）
- 08年に比べ今回は全般的に急上昇（30才台はやや内輪）

図17. 離職念慮(「はい」)



- ・ 98年に比べ08年では30才未満で減少，50才台で上昇
- ・ 08年に比べ今回は30才未満と40才台で急増

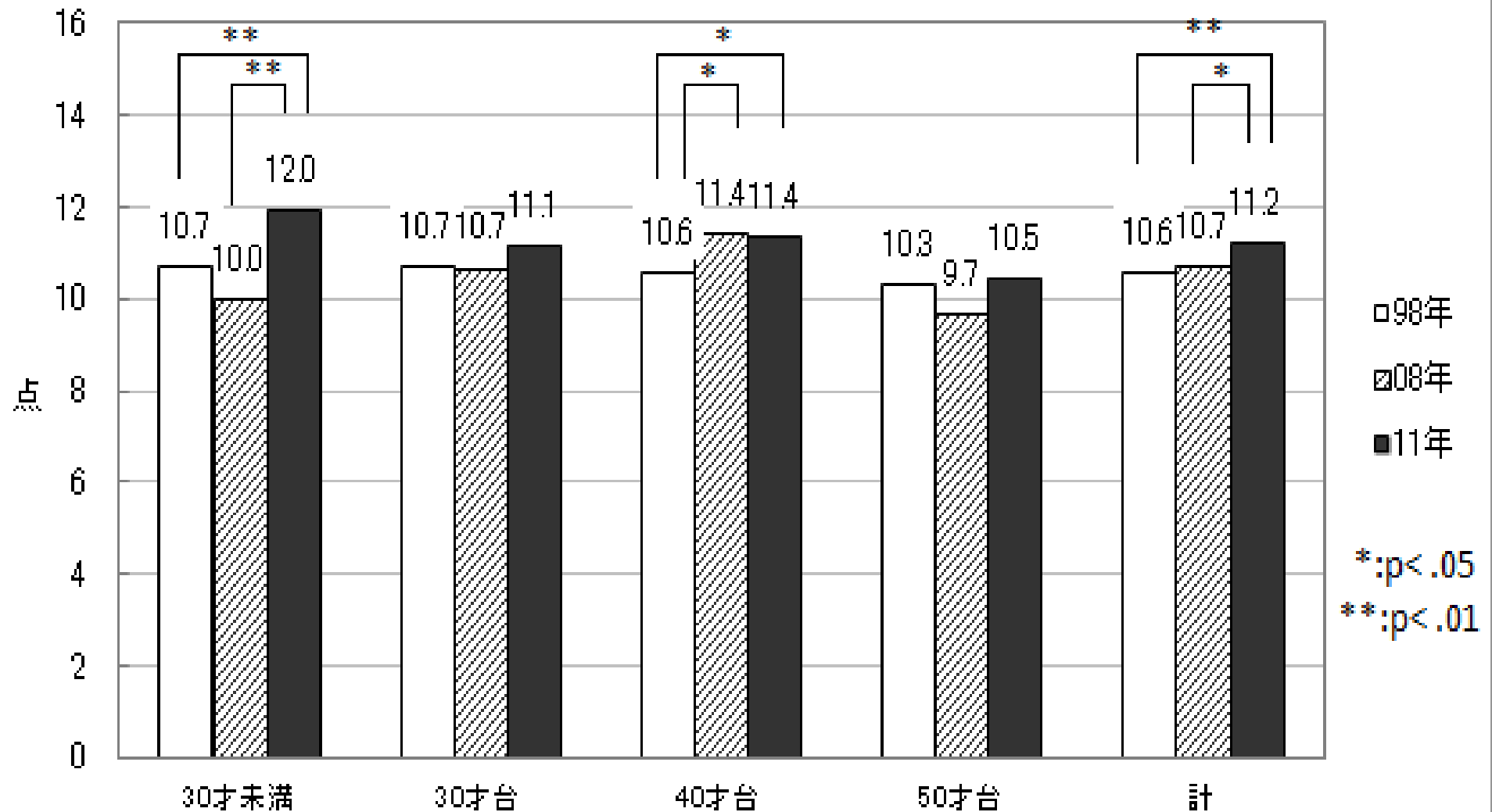
図18. 仕事の量的負荷(尺度得点平均値)



•98年に比べ08年の方が全体的に減少

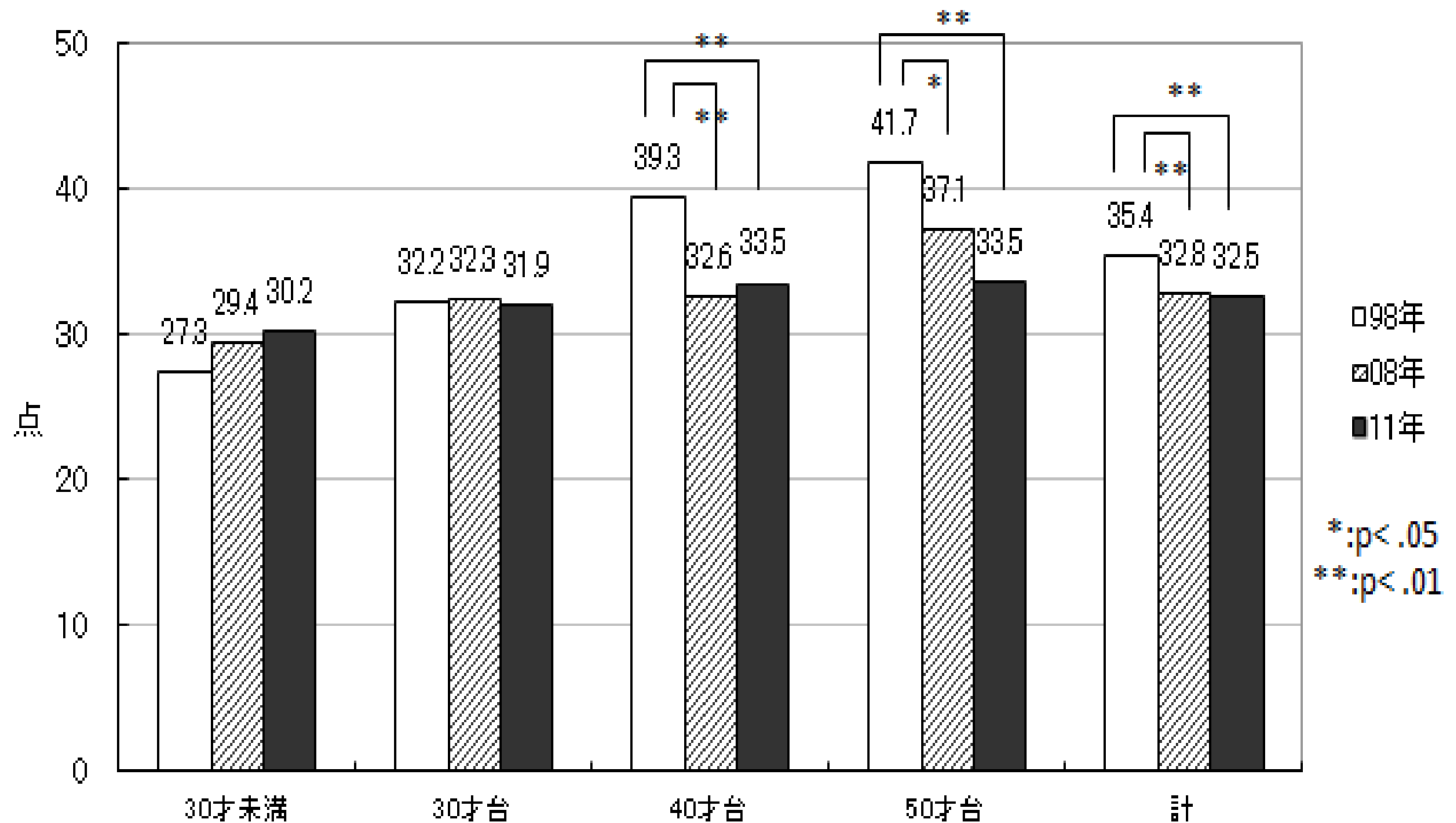
•08年に比べて今回は全般的に微増（30才台は不変）

図19. 将来不明確(尺度得点平均値)



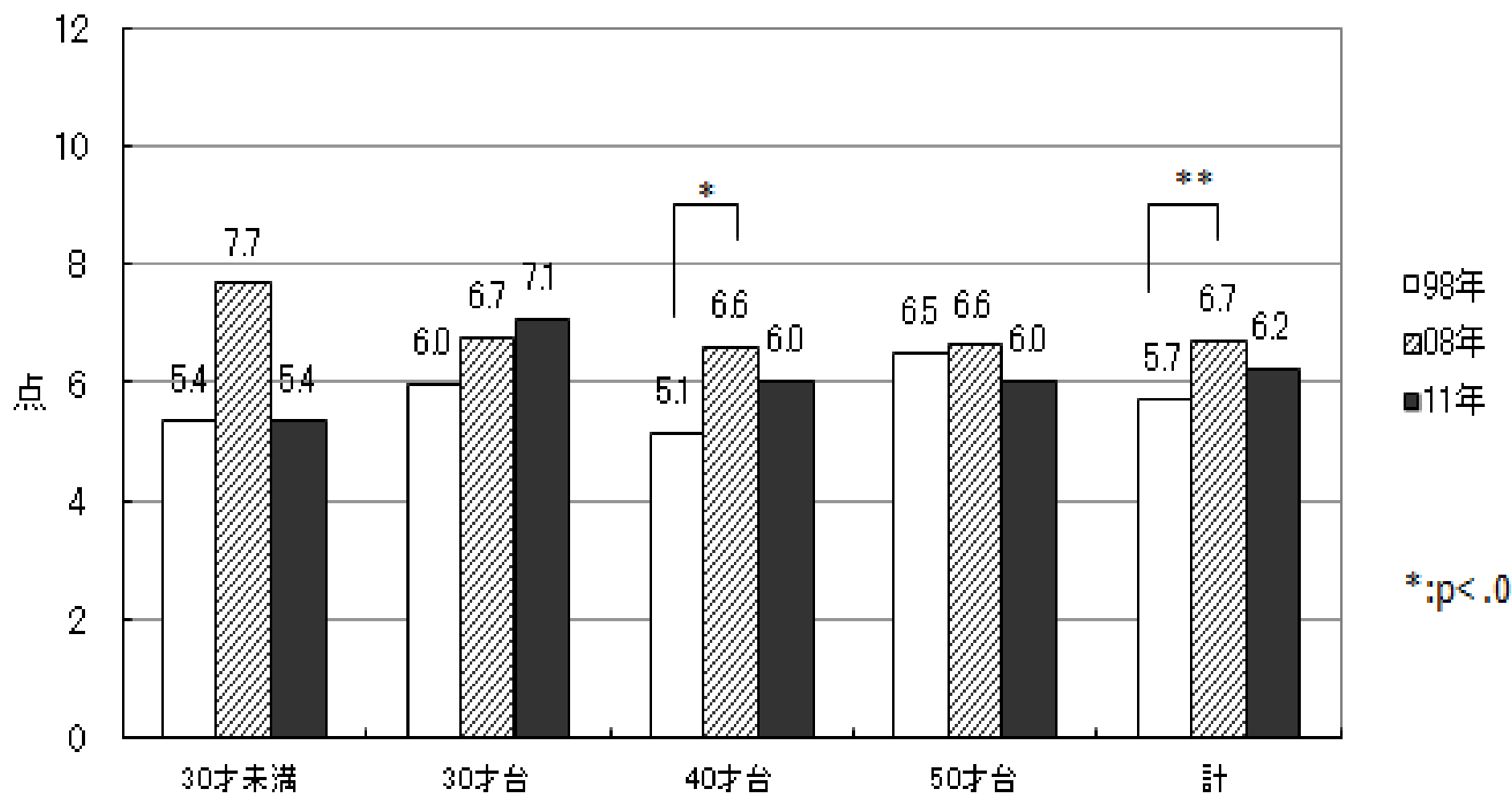
- 98年に比べ08年は、40才台で上昇
- 08年に比べて今回は30歳未満で上昇

図20. 作業制御(仕事コントロール)(尺度得点平均値)



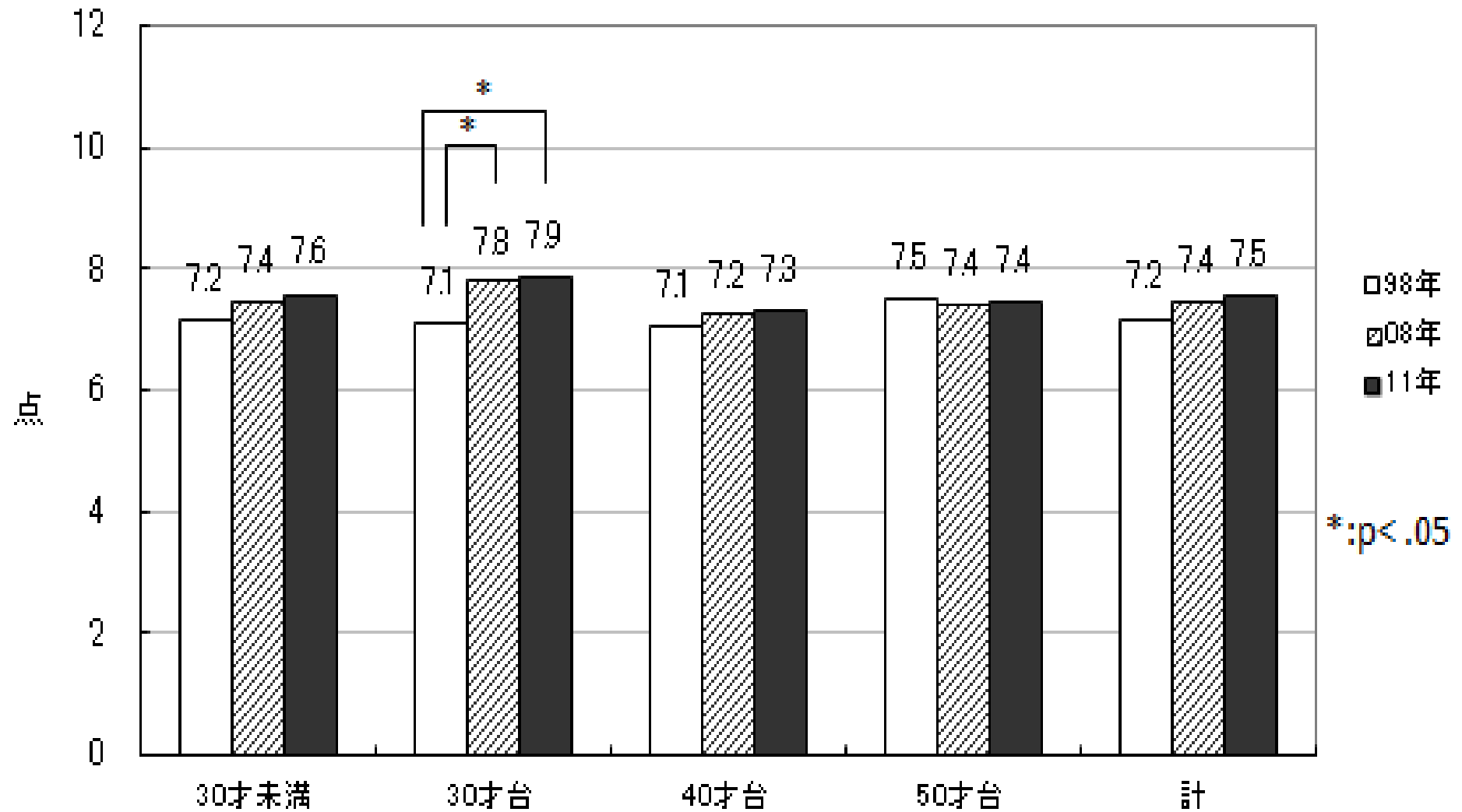
- 98年に比べ08年は、40才台・50才台で減少
- 08年に比べて今回は50才台でさらに減少

図21. 仕事役割葛藤(尺度得点平均値)



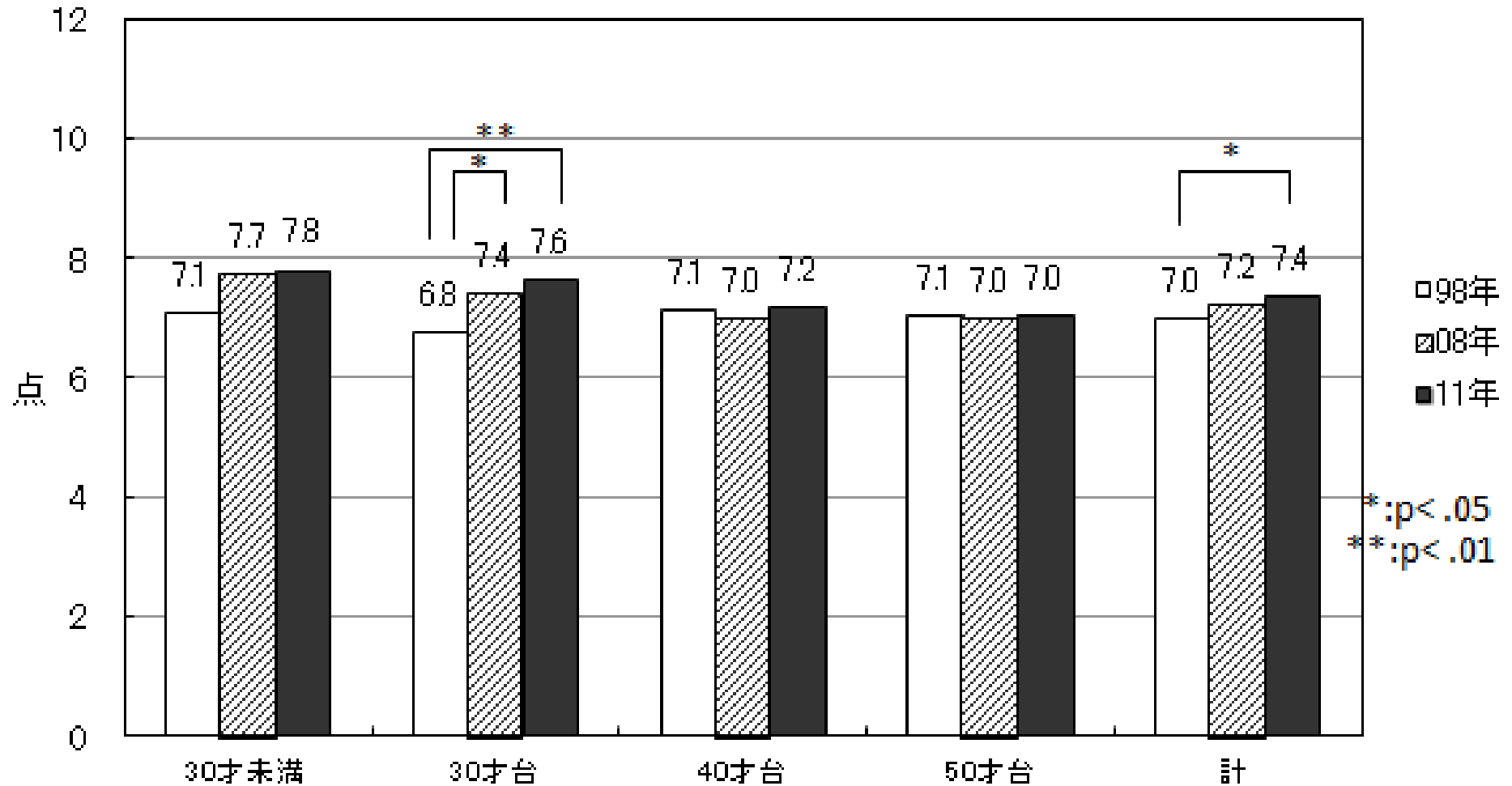
- 98年に比べ08年の方では若年層で上昇
- 08年に比べて今回は30才未満で減少, 30才台で微増

図22. 社会的支援:上司の(尺度得点平均値)



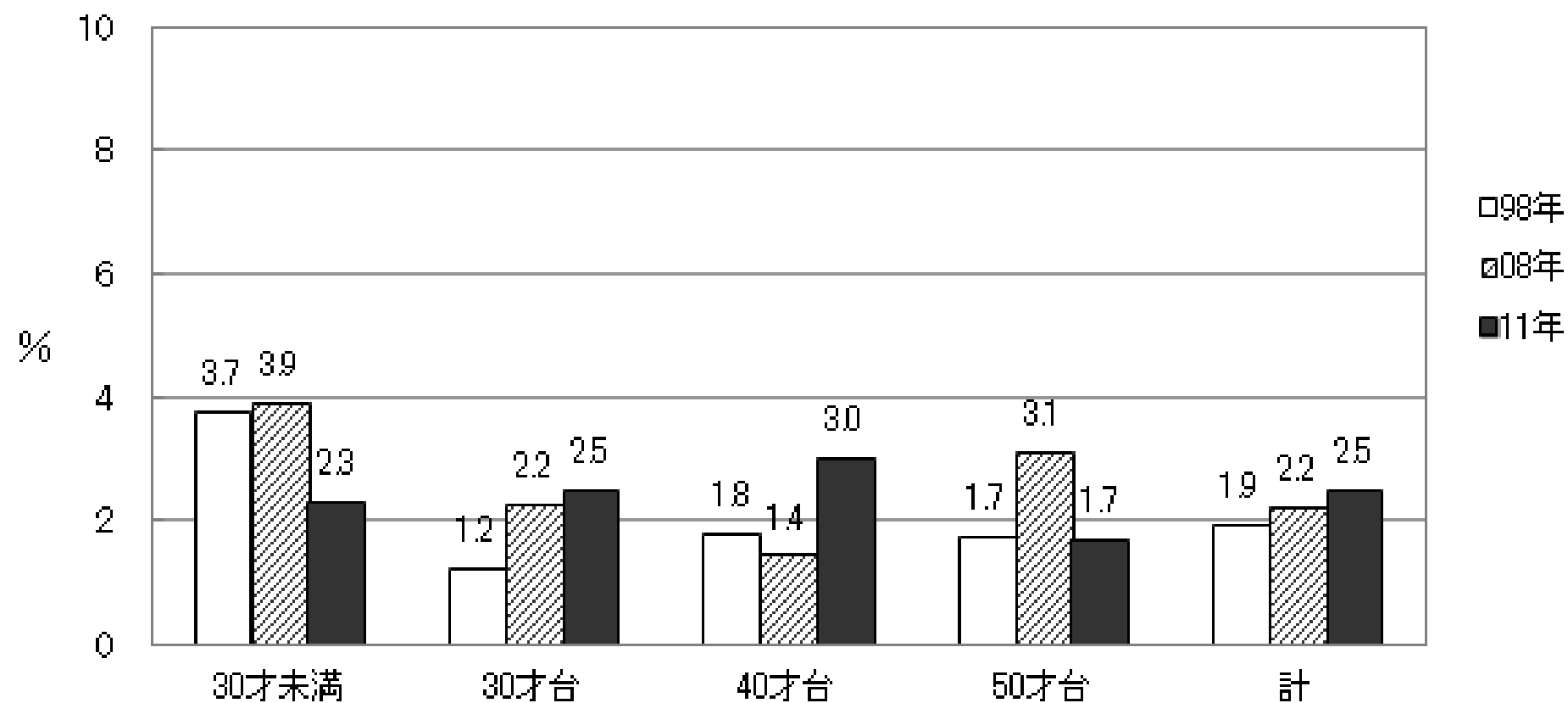
•若い世代では若干増加？

図23. 社会的支援:同僚(尺度得点平均値)



•全般的にあまり変わっていないか、若い層では若干増加？

図27. うつ状態判定(DSD陽性率)



•40才台でうつ状態疑いの陽性率が増加している

調査結果のまとめ(1)

- 1: 中高年齢層の自覚的健康度が低下, ストレスの感じ方が急増.
- 2: 離職念慮は, 若い世代で顕著.
- 3: 仕事ストレスに関して,
 - 量的負荷: 増加傾向(30才台のみ減少).
 - 将来不明確: 40才台と若い世代で顕著に増加.
 - 裁量度: 中高年齢層で顕著に減少.
- 4: 上司同僚からのサポートは若年層でむしろ増加.

調査結果のまとめ(2)

5: 仕事満足度は中高年齢層で低下, うつ状態は40才台において悪化傾向

6. 聞き取り調査: 質問紙調査の妥当性に肯定的

⇒ 中高年齢層のメンタルヘルス悪化はさらに進んでおり, かつ, 若い世代への影響が出始めている。

今後の展望

⇒ 中高年労働者の裁量度を回復させる試み、若年労働者に離職させない職場環境作りなど、年代ごとのサポートを個別に検討する必要がある。

⇒ 「メンタルヘルス対策支援センター」といった公的サポートの積極的な利用が望まれる。

* 最後に、このような過酷な状況下で調査に協力してくださった参加者の皆様に謝意を表します。